

新潟大学学長選考 意向投票尊重を

教職員有志が要望

新潟大の次期学長選考が25日に行われるのを前に、教職員有志が22日、教職員による意向投票の結果を重視するよう求め、新学長を選出する学長選考・監察会議に要望書を送付した。「意向投票に重みがあると受け止めてもらうため」としている。

学長は2026年1月末の任期満了に伴い選考される。候補者は脳研究所長の小野寺理氏(63)、理事で副学長の染矢俊幸氏(67)、理事で副学長の川端和重氏

(69)。8月に実施した意向投票では小野寺氏が882票、染矢氏が420票、川端氏が197票を獲得した。

要望書では意向投票が単なる人気投票ではなく、教職員が真摯に投票したことなどを強調。匿名も含め156人が名を連ねた。

2019年の学長選考では、意向投票で最多得票を得た牛木辰男現学長(68)が選出された。

要望を呼びかけた一人は、文学部の原直史教授(63)は「大学組織は教職員の皆でつくり上げることが大切だ」と話した。